



安重根「東洋平和論」と 日韓歴史認識の国境越え

主催; 龍谷大学社会科学研究所附属安重根東洋平和研究センター
安重根義士紀念館(韓国・ソウル)
協力; 「韓国併合」100年市民ネットワーク

2015/11/7(土) 10:00~18:00
龍谷大学 響都ホール 校友会館
(京都駅八条口すぐ アバンティ9階)

資料代(一般1,000円・学生無料)

<国際学術会議等プログラム>

第I部:学術交流(国際学術会議)

9:30 受付開始

10:00 挨拶 安藤徹・龍谷大学図書館長

鄭夏哲・(社)安重根義士崇慕會常任理事

李洙任・安重根東洋平和研究センター長

10:20 事業報告 李惠筠・安重根義士紀念館事務次長

活動報告 重本直利・安重根東洋平和研究センター事務局長

10:40 報告:「東アジア歴史認識問題の焦点としての安重根

—ハルビン安重根義士紀念館をめぐる日本政治の対応を手がかりに—

報告者:勝村誠・立命館大学政策科学部教授

討論者:吳瑛燮・延世大学教授

報告:「東北亞政勢と東洋平和論」

報告者:柳永烈・元崇実大学教授・国史編纂委員長

討論者:牧野英二・法政大学教授

12:30 昼食

13:30 記念講演:「越境する戦争の記憶」

テッサ・モリス=スズキ氏・オーストラリア国立大学教授

14:50 休憩

15:00 報告:「安重根の思想史的地平」

報告者:小川原宏幸・同志社大学グローバル地域文化学部准教授

討論者:崔惠珠・漢陽大学教授

報告:「安重根遺骸發掘の現況と課題」

報告者:金月培・中國大連外國語大学教授

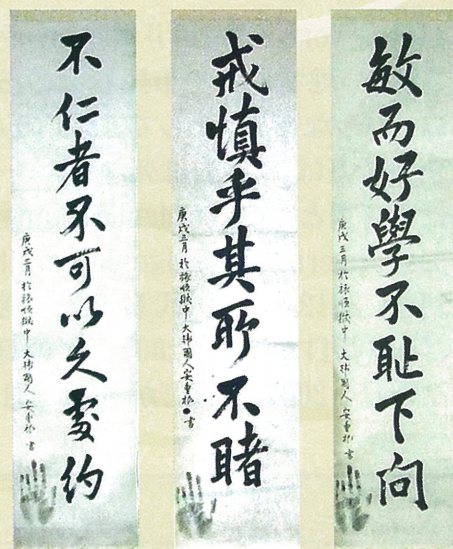
討論者:細川孝・龍谷大学教授

16:50 休憩

第II部:文化交流

17:00 公演: Duoaim(Giuseppe & Kumico KIM)によるPoem Songs (Opera)

18:00 終了予定



「龍谷大学図書館」寄託資料

安重根の遺墨

安重根の遺墨(レプリカ)および資料の展示を
同ホールロビーで行います
(主催:龍谷大学図書館)



テッサ・モリス=スズキ氏
(オーストラリア国立大学教授)

安重根東洋平和研究センターは、東アジアの平和と安定の実現に向けて、戦後補償問題や歴史認識から生じる諸問題の解決の糸口を模索するため市民活動と関連した研究活動を展開することを目的とし、2013年5月に龍谷大学、社会科学研究所に設置されました。センター名の由来は、安重根の「東洋平和論」の歴史的・現代的考察を社会に発信するためです。戦前の日本では、宗教は日本人の生活に根付いており宗教関係者は開教や布教活動のために精力的に活動するものも多かったのです。例えば、明治初期には「内地植民地」と呼ばれていた北海道や沖縄に精力的に開教や布教活動を展開していたのが浄土真宗の僧侶です。朝鮮の植民地支配以前にも本願寺釜山別院が既に設置されていました。龍谷大学の図書館(深草キャンパス所在)に寄託された安重根の遺墨の歴史を辿ると、朝鮮半島に開教や布教のために活動した僧侶の存在を知ることができます。この遺墨は、死刑囚の教戒師として安重根と接した津田海純師(旅順西本願寺出張所住職)が安重根から譲り受けたものです。安重根の遺墨を見ると、津田師との信頼と友情関係が実感でき、日韓関係の在り方がどうあるべきかを私たちに問いかけているようです。ぜひともこの機会にご参加ください。

龍谷大学社会科学研究所附属 安重根東洋平和研究センター

記念講演者 ご紹介

テッサ・モリス＝スズキ氏(オーストラリア国立大学教授) プロフィール

(Tessa Morris-Suzuki) オーストラリア国立大学教授。民族や国家の境界を越え、新しい地域協力や市民社会のあり方を構想し続けるモリス＝スズキ氏は、グローバルな知識人としてアジアの人々の相互理解に多大な貢献を為している。最新の著書は、『過去は死なない——メディア・記憶・歴史』(岩波書店、2014年)、他の著書として、Borderline Japan: foreigners and frontier controls in the postwar era, Cambridge University Press, 2010、『北朝鮮で考えたこと』(集英社新書、2012年)、田代泰子訳『北朝鮮へのエクソダス——「帰国事業」の影をたどる』(朝日新聞社、2007年/朝日文庫、2011年)、『愛国心を考える』(岩波ブックレット、2007年)などがある。2013年(第24回)福岡アジア学術研究賞受賞。



第II部; 文化交流 Duoaim(Giuseppe & Kumico KIM)によるPoem Songs (Opera) ご紹介

Giuseppe & Kumico KIM (DUOAIM) プロフィール

イタリア サレルノ国立音楽院、サンタチェチーリア国立アカデミーでオペラデビュー、2001ベネルクス国際ソングエキスポ(Benelux International Song Expo)、作曲、台本、編曲賞を受賞。2014大韓民国創造文化芸術大賞を受賞。“東洋の夫婦愛が昇華された美しい音楽会”と称される注目される夫婦アーティスト(Kumicoさんの母は日本人)。安重根の実母、(趙マリア)が処刑前に託した手紙「息子へ」を歌詞にした美しい歌声を聴かせる。安と同じくキリスト教徒だった母は、「正しい事をして受ける刑だから卑怯に生を求めず大義に死ぬことが母に対する孝行である」と息子に最後のメッセージを送った。

